

J BUS

JBUS ENVIRONMENTAL REPORT

ジェイ・バス株式会社
環境報告書 2005

ジェイ・バス株式会社 環境報告書 2005

CONTENTS

1 所長挨拶



環境指針

- 2 小松事業所 環境方針
宇都宮事業所 環境方針
継続的改善

製品紹介

- 3 一般製品
環境配慮製品
環境配慮設計



環境マネジメントシステムの状況

- 4 小松事業所 2004年度実績
2005年度目標
宇都宮事業所 2004年度実績
2005年度目標
教育・訓練

環境負荷低減の取組

- 7 CO₂排出量 原単位
空調設備の取組み
3R活動の紹介

8 環境関連設備



コミュニケーション

- 9 見学者の受入
例年、7月に行なわれる『納涼祭』
工場班長会による周辺地域のゴミ拾い
新潟中越地震災害復興ボランティア

環境に係わる法規制遵守状況

- 10 PRTR法への取組み
その他法規制について
法の遵守状況の監視

グリーン調達・環境会計

- 11 宇都宮事業所 グリーン調達
環境会計

報告対象期間 報告対象
会社概要

【報告対象期間】

2004年度（2004年4月1日～2005年3月31日）を対象にしておりますが、活動については一部直近のものを記載しています。また、必要に応じてデータはそれ以前のものから利用しています。

【報告対象範囲】

ジェイ・バス株式会社 小松事業所並びに宇都宮事業所の、国内における環境への取り組みについて取りまとめています。

【作成部署】

作成及び社外との窓口を総務部 安全環境グループが担当しております。

会社概要

商 号	ジェイ・バス株式会社
事業所所在地	（本社、小松事業所） 石川県小松市串町工業団地30番地 TEL：0761-44-8610 （宇都宮事業所） 栃木県河内郡河内町中岡本2857番地の2 TEL：028-673-6060
設 立	2004年10月1日
資本金	19億円
従業員数	1370人（2004年10月1日現在） （宇都宮 600名 小松 770名）
主な事業内容	大型・中型・小型バス（観光・路線・自家用）の生産
売上高	334億円（2004年10月～2005年3月）



小松事業所

敷地面積 201,883 m²

建築面積 56,337 m²



宇都宮事業所

敷地面積 111,855 m²

建築面積 44,775 m²

日野車体工業株式会社

- 1908年
■脇田兼太郎個人経営で東京芝浦において自動車車体製作を創業（帝国自動車工業前身）
- 1945年
■金沢航空工業株式会社設立（金産自動車工業前身）
- 1975年
■両者合併、日野車体工業株式会社に社名変更
- 2002年
■本社工場を小松市に移転

いすゞバス製造株式会社

- 1948年
■大型バス製造開始（現・川崎重工業株式会社）
- 1986年
■「アイ・ケイ・コーチ株式会社」創立
いすゞ自動車株式会社
川崎重工業株式会社
- 1995年
■「いすゞバス製造株式会社」に社名変更

ジェイ・バス株式会社

- 2003年
■持株会社として創立



ジェイ・バス株式会社

- 2004年
■3社が統合して、新生「ジェイ・バス株式会社」となる

ごあいさつ



ジェイ・バス株式会社
代表取締役社長

滝 沢 聰

環境報告書を昨年に引き続き、第2回目として発行することになりました。

昨年は合併直後であり、小松／宇都宮 両事業所のISO-14001活動を中心に紹介させて頂きました。その後の1年間で合併による具体的効果として、両事業所の生産品目の棲み分けが進み、小松は観光車、宇都宮は路線車と明確になりました。

さてこの一年間で地球温暖化に起因する異常気象、異常現象が多発していることは皆様御周知と思います。特に異常気象による重大災害が多発しており、この傾向が良くなる兆候は見当たりません。

一方、環境問題においても、連日の如く、次から次へと新たな問題が提起され、対応について連日マスコミに報じられ、これらの問題は過去の経済高度成長期の遺物が大半ですが、元の状態に戻す為には莫大な費用を投じて対処せざるを得ないのが実情です。

上記観点から、弊社の主要課題として、CO₂の削減の為、省エネルギー活動を行っており、もうひとつの活動として、廃棄物の削減、有害物質の法令に基づく処置を行っております。バスは数千点に及ぶ部品で構成され、その部品のほとんどが仕入先から購入しております。従って仕入先に対して弊社の活動を紹介し、弊社に準拠した活動を御願いしております。以上全社を挙げて環境保全に取り組んでおります。

一方、社内の活動だけでなく、地域社会において良き隣人、良き市民となるべく環境保全活動を推進しております。

ここに昨年から一年間の両事業所の活動状況をご紹介します、皆様のご理解をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。



小松事業所
代表取締役専務
所長

原 政 芳

当事業所は、昨年8月にISO14001の認証を取得し、地球環境の保全を推進してまいりました。この一年間、環境マネジメントシステムの運用・管理には色々な問題がありましたが、事業所全員の努力で乗り越え、本年度のサーベイランスも無事に終了致しました。

05年度の環境保全計画のスタートに当り、04年度活動結果を反省し、環境マネジメントシステムの改善を3項目指示致しました。第一に環境教育の充実です。事業所の全員がISO14001の規格に沿った正しい環境保全が出来る様にします。第二に環境関連法令を守り、法令違反を発生させないシステムを確立すること。第三にシステムの監視体制の強化です。ISO14001では内部環境監査でシステムの構築・管理・運用状況を監査する事になっています。この監査を出来る人材がいなければシステムの監視が出来ません。新たに8名を選任し、監査できる能力を持たせます。又、環境マネジメントシステムを実行するには経営資源の投入も必要です。危険物を管理する倉庫の増設、設備改善による省エネの推進、事業所敷地の緑化を行います。

地域社会の一員として、地域の環境保全も推進致します。当事業所に降った雨水は農業用水となり畑で使われます。そこで雨水の排水設備を環境重要設備とし管理を強化しました。事業所のゴミの管理も行います。ゴミが強風で周囲の道路に散乱するのを防ぎます。

これらの事々を確実に実行し、きれいな地球環境を守るため、地域住民、関連する各位殿とのコミュニケーション図り、自然と人に調和した事業活動を展開していく所存であります。



宇都宮事業所
専務取締役
所長

草 刈 寛 治

宇都宮事業所の、この一年間を振り返り、環境改善実施の基本方針と具体的な改善事例について紹介いたします。

まず第一は、環境改善をしてコスト削減にもなる課題を優先的に実施する、という事です。改善事例としては、材料歩留まり向上による資材費低減やコピー費削減、それにリサイクル率向上活動、等です。これらの活動により、この一年間で廃棄物を減らしながら100万円を超えるコスト削減が出来ました。

第二は、設備の老朽代替時に省エネルギー設備を導入する、という事です。当事業所の主要設備の中には、老代時期を迎えているものが少なからずあり、ボイラーやエアコンプレッサー、それに空調設備など最新鋭の省エネタイプのものに代替して電気代を始めとするエネルギー費の削減と共に、CO₂の削減にも貢献できました。

第三は、当然のことながら環境に関わる法規制や上部団体等の自主規制の遵守です。CO₂排出量の規制など、これまでの取り組み課題以外にも、リサイクル法への対応や揮発性有機化合物(VOC)、環境負荷物質(SOC)の自主規制対応にも取り組み始めました。当事業所としては、「製品環境分科会」を設け、環境配慮設計と称して、バス設計段階からのリサイクル考慮設計の検討や有害物質の使用量削減などの活動を展開しています。設備/工法的にもVOCの規制物質を排出しない粉体塗装を導入するなど環境や人に優しいバス作りに努めています。

最後に、「水と緑と人にやさしく、心ときめく田園都市・河内」をテーマに町づくりを進めている河内町に所在する一企業として、情報公開や地域社会とのコミュニケーションを始めとして、これからも地域環境の保全活動に積極的に参加していきます。



環境指針

環境負荷低減活動を実施していくための仕組み<環境マネジメントシステム>を運用するために、環境方針を定め、ISO14001の真髄ともいえる継続的改善『PDCAサイクル』を維持していくことにより、環境負荷低減活動に取り組んでいきます。

環境方針

小松事業所

環境方針

1．地球環境との調和

きれいな地球環境を守るため、自然と人に調和したバスの製造及び製品サービスの事業活動を展開し、環境への影響を常に認識し、地球にやさしいバスづくりを目指します。

2．環境汚染の未然防止と継続的改善

環境を守る組織と仕組みを作り、環境汚染の未然防止と環境影響を少なくする改善を続けます。

3．法規等の遵守

国の法律、自治体の条例や、私たちが守ると決めた環境に関する要求事項を守ります。

4．省資源・省エネルギー

廃棄物・排出物の削減、省資源・省エネルギー活動を推進し、有害物質から自然を守り、資源とエネルギーの有効活用に取組みます。

5．環境保全活動への全員参加

全従業員に環境方針を周知し、一人ひとりが自覚と責任を持って、環境保全活動に参加します。

6．地域社会とのコミュニケーション

地域社会とのコミュニケーションを通じて、地域との環境保全に取り組めます。

宇都宮事業所

環境方針

当事業所は、地球環境保全が人類共通の最重要課題の一つである事を認識し、環境にやさしく地域に調和できる工場づくりと、社会を豊にするバス造りを目指し、全員参加で環境活動を行う。

推進項目

1

環境関連法規・協定等を遵守し、地球環境への汚染防止に努める。

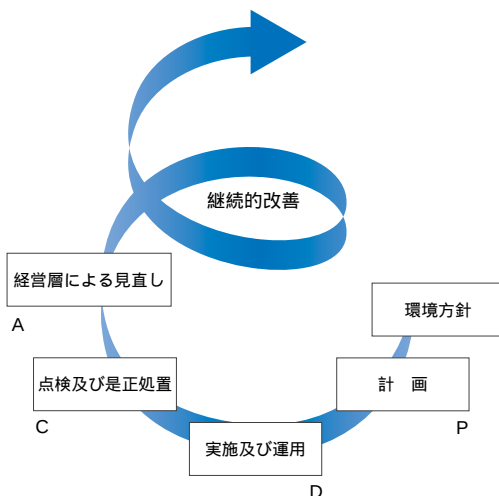
2

廃棄物削減・省エネルギー等、環境負荷低減の目的・目標を定め、継続的に改善し、定期的に見直す。

3

地域社会とのコミュニケーションを図り、地域における環境保護活動に積極的に協力する。

継続的改善



P：環境側面・法的要求事項を抽出し自ら決めた「目的・目標」を達成するための計画表を作成し

D：計画通りの運用、手順書通りの実施文書管理、緊急時の対応 確実に行い

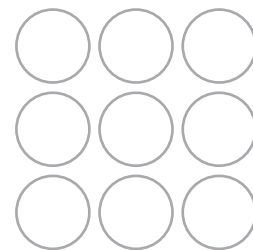
C：定期的な点検、内部監査によりシステムの確認、是正を経て

A：経営層による見直しを行い、システム全体の改善を実施する。

ISO14001認証取得

宇都宮事業所 2003年8月

小松事業所 2004年9月



一般製品

- | | |
|----------|--------------|
| 1 大型観光バス | 4 中型 貸切・送迎バス |
| 2 大型路線バス | 5 小型 貸切・送迎バス |
| 3 中型路線バス | 6 小型 路線バス |



大型路線バス



小型路線バス



大型観光バス



中型路線バス



中型 貸切・送迎バス



大型路線バス

環境配慮製品

1 CNGバス

天然ガスを燃料としています。天然ガスは軽油と比べ、CO₂の発生量が約半分と、地球環境にやさしいバスです。しかも、ノンステップ仕様で、利用するお客様にもやさしい製品です。



CNGバス

2 ハイブリッドバス

ハイブリッドユニットをコンパクト化し、ルーフ上に設置したことによりノンステップ化を実現しました。そして、先進のクリーンディーゼルテクノロジー“DPR”を搭載。



ハイブリッドバス

3 燃料電池バス

水素ガスを燃料としています。「CO₂による地球の温暖化」「化石燃料の消費」これらの地球環境問題に対応して、開発を行っています。



環境配慮設計

両事業所の設計部では、環境負荷低減の製品開発を推進しています。

- PRTR法指定物質の低減**
PRTR法で使用量の報告が義務付けられいる化学物質を減らすため、開発・設計段階から対象物質が少なくなる様に努力しています。
- 省資源**
車体の軽量化、部品の共通化等を推進し、使用する材料を少なくし、地球の資源枯渇防止につながる、開発・設計に努力しています。
- 解体性の容易化**
バスもお客様が長年使用後には廃却されゴミとなります。その時に各部品が再利用され、資源となる様、解体性の向上に取り組んでいます。
- 鉛、六価クロム、カドミウム、水銀の4環境負荷物質の削減を積極的に進めています。**



環境マネジメントシステムの状況

環境目標 及び実績（小松事業所）

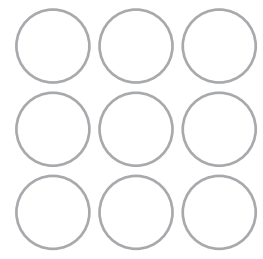
2004年度実績

環境目的	環境目標	目標値	評価
法規制物質濃度・排出量の遵守	環境関連法令・条例の遵守 総合排水(生産系・生活系)の排水濃度の安定化	1. 排水濃度の法基準(自主基準含む)遵守 自主基準値 オーバー0件	
	騒音クレームの防止	2. 騒音値の法基準(自主基準含む)遵守 クレーム0件	○
著しい環境側面	環境重要施設の改善	管理の手順評価点の低減 2点以下	○
	物的防止(環境影響を阻止する物的防止対策)	法規制値 オーバー0件	○
生産環境部会	地球温暖化防止策の推進	1. CO ₂ 排出量の削減 省エネ、省資源 CO ₂ 原単位 前年度比1%減(▲0.038ton-co ₂ /台)	○
	廃棄物の削減(ゼロエミッション含む)	1. 現状把握と削減計画作成及実施 前年度比 ▲2%/台 実施率 100%	○
	物流改善による廃棄物の削減	1. 現状把握と削減計画作成及実施 前年度比 ▲2%/台	○
	化学物質の管理(法の遵守を含む)	1. 現状把握と削減計画作成及実施 実施率 100% 前年度比 ▲2%/台	○
製品環境部会	製品環境面からの環境保全	1. 部会開催 実施率 100%	○
	製品環境の知識習得	2. 勉強会による設計部員の教育 実施率 100%	○
	環境負荷物質の削減	3. 禁止物質・有害物質の削減 1) 6価クロムフリー化 2) シール材・接着剤の削減 1. 使用塗料の全廃 2. 使用ビスのリスト作成 1. 対象物特定 2. 代替品に変更(04年12月)	○ ○ ○
	リサイクルの推進	4. 複合材削減及び軽量化・解体性簡易化によるリサイクル性向上 1) シュレッダーダスト・廃棄物削減 2) ボデー軽量化 3) 解体性容易化 1. 新規開発車への盛り込み(04年12月)	○
教育・訓練	ISO14001関連教育	1. 定期的な教育実施 実施率 100%	○
	法定有資格者の育成	1. 有資格者不足の解消 実施率 100%	○
地域社会とコミュニケーション	工場周囲の緑化推進	1. 造園による工場周囲の快適性向上 144m ² (0.15m ² /人)	○
	地域社会の環境ボランティア活動	1. 事業所周围の道路のゴミ拾い 実施率 100%	○
情報開示	ホームページに情報掲載	1. ISO14001活動状況の公開 一般公開	○

環境目標 及び実績（宇都宮事業所）

2004年度実績

目 的	目 標	評価
廃 棄 物 削 減	コピー費 5%減(初年度比10%減) ゼロエミ リサイクル率83%→88% 特定10項目の資材費低減 13,167千円	○ ○ ○
省 エ ネ ル ギ ー	電力使用量 3%削減 A重油使用量 2%削減 LPG使用量 2%削減	○ ○ ×
グ リ ー ン 調 達	協力企業でのマネージメントシステム構築 グリーン購入	○
在 庫 管 理	有償譲渡部品 在庫管理点数 上期 550点以下 下期 600点以下 床材余剰品本数低減 上期 ▲10%/03年度期末 下期 ▲20%/03年度期末 基準部品低減 04・3月末在庫に対し、05・3月まで 5,000千円削減 Z部品低減 04・3月末在庫に対し、05・3月まで 3,000千円削減	○ ○ ○ ○
環 境 配 慮 設 計	【リサイクル設計】 リサイクル設計手順書 【有害物質の削減】 ISZ法規制物質戦略	○ ○
人 材 育 成	環境管理教育の実施・フォロー 法的資格保有者の養成 特定業務従事者の能力向上 チェックマニュアル作成	○ ○ ○
環 境 会 計	上期構築、下期評価実施	○



2005年度目標

	環境目的	環境目標	目標値
法規制物質濃度・排出量の遵守	環境関連法令・条例の遵守	1. 排水濃度の法基準（自主基準含む）遵守	自主基準値オーバー0件
	総合排水（生産系・生活系）の排水濃度の安定化	2. 騒音値の法基準（自主基準含む）遵守	クレーム0件
	騒音クレームの防止	1. VOC排出設備の特定と対策検討・立案	対策立案100%完了
著しい環境側面	大気汚染防止法改訂への対応	管理の手順評価点の低減	2点以下
	環境重要施設の改善	物的防止（環境影響を阻止する物的防止対策）	法規制値オーバー0件
生産環境部会	地球温暖化防止策の推進	1. CO ₂ 排出量の削減 省エネ、省資源	CO ₂ 原単位 前年度比1%減（▲37kg-co ₂ /台）
	廃棄物の削減（ゼロエミッション含む）	2. 物流で発生するCO ₂ の削減	前年度比 ▲5%/台
	物流改善による廃棄物の削減	1. 現状把握と削減計画作成及実施	前年度比 ▲5%/台
	化学物質の管理（法の遵守を含む）	1. 現状把握と削減計画作成及実施	前年度比 ▲5%/台
製品環境部会	製品環境面からの環境保全	1. 改善計画の作成と実施	実施率100%
	環境負荷物質の低減		
	製品環境の知識習得	1. 禁止4物質の段階的全廃	実施率100%
	環境負荷物質の削減	1. シール材・接着剤の削減	設定実施率100%
	省資源	1. 歩留まり改善と廃棄物総量の削減	廃棄物5%削減 在庫量5%削減
		2. 共通化・標準化	5%削減
教育・訓練	リサイクルの推進		
	シュレッダーダスト・廃棄物の削減	1. 木材の使用量削減	5%削減
	ボデー軽量化	1. 新規開発車の軽量化	160開発指示書による
	解体性容易化	1. 複合材の低減	5%低減
	ISO14001関連教育	1. 定期的な教育実施	実施率100%
			実施率100%
地域社会とコミュニケーション	法定有資格者の育成	1. ISO規格変更の対応	文書類の改訂100%
		2. 2004年度版の教育実施	実施率100%
	法的有資格者の育成	1. 有資格者不足の解消	不足0人
	内部環境監査員の育成	1. 内部監査体制の強化	8名増員
情報開示	雨水の排水		
	農業用水への影響を考慮	1. 排水濃度の法基準（自主基準含む）遵守	自主基準値オーバー0件
	梱包材の飛散防止及び敷地境界線付近のゴミ低減	1. 管理の手順評価点の低減	2点以下
	事務所敷地の緑化	1. 植栽と緑地の造園による事務所周囲の快適性向上	1. 植栽60本 2. 緑地（芝生）5000m ²
	地域社会の環境ボランティア活動	1. 事業所周围の道路のゴミ拾い	実施率100%
	環境報告書の発行	1. ISO14001活動状況の公開	一般公開

2005年度目標

目 的	目 標
廃 棄 物 削 減	コピー費5%減（初年度比15%減） ゼロエミ リサイクル率88%→90% 特定10項目の資材費低減 6,383千円
省 エ ネ ル ギ ー	電力使用量 計画値に対して2%減 A重油使用量 " 1%減 LPG使用量 "
グ リ ー ン 調 達	協力企業でのマネージメントシステム構築、物流改善 グリーン購入
在 庫 管 理	有償譲渡部品点数 2004年度期末 503点 管理点数 05/9/末 420点以下 06/3/末 420点以下 床材余剰品本数低減 メーター数低減 2004年度期末 840Mに対し 上期 ▲14%720M 下期 ▲28%600M 基準部品管理 回転期間 上期平均0.4以下 下期平均0.4以下 Z部品低減 回転期間 上期平均1.2以下 下期平均1.1以下
環 境 配 慮 設 計	【リサイクル設計】リサイクル設計手順書 【有害物質の削減】ISZ法規制物質戦略
人 材 育 成	環境管理教育の実施・フォロー 法的資格保有者の養成 特定業務従事者の能力向上
環 境 会 計	全部署の纏め上げ

環境マネジメントシステムの状況

教育・訓練

社内教育の実施

内部監査員教育をはじめ、各階層に応じた教育活動を実施しています。



年間では以下のような教育・訓練を計画しています。

- 内部監査員教育
- 新入・転入者（随時）
- 廃棄物分別
- 化学物質取扱
- 排水・汚水設備運転
- ボイラー・コンプレッサー運転訓練
- フロンガス充填
- 緊急流出対応手順テスト
- LPG設備緊急対応訓練・テスト
- 排水処理緊急対応訓練・テスト
- 汚水処理緊急対応訓練・テスト
- 火災対応

内部監査の実施

内部環境監査では、監査員が単に不適合を指摘するだけでなく、被監査部署の環境管理者と、不適合発生原因の追究を行い再発防止と、EMSの管理レベルの向上を図っています。



緊急時対応

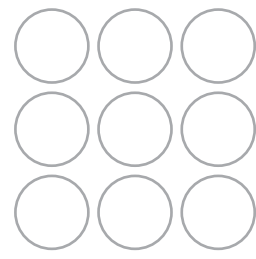
事故・災害などの緊急事態に備え、各職場に応じた訓練・テストを実施しています。

緊急流出や火災を想定した訓練



火災等を想定し、自衛消防組織に基づく任務に従い、火災の発見から到着した消防隊への情報提供まで総合的な訓練を行っています。

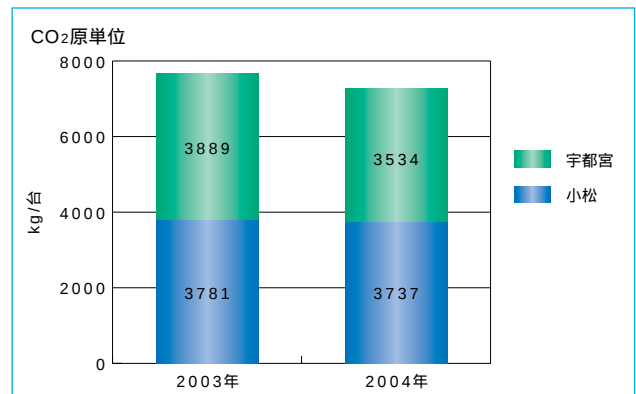




環境負荷低減の取組

CO₂排出量 原単位

CO₂削減のためのアクションとして、省エネ活動や廃棄物の削減の取組が上げられます。
また、生産性の向上、高効率型エアコンの導入、3R活動の推進により原単位で前年度比5%減となりました。



空調設備の取組み

老朽代替を機に省エネ型の導入を進めています。
宇都宮事業所の主要な事務所においては、氷蓄熱式空調設備を導入し、夏季のピーク時における電力使用抑制に効果を上げています。



氷蓄熱式空調設備

3R活動の紹介（宇都宮事業所）

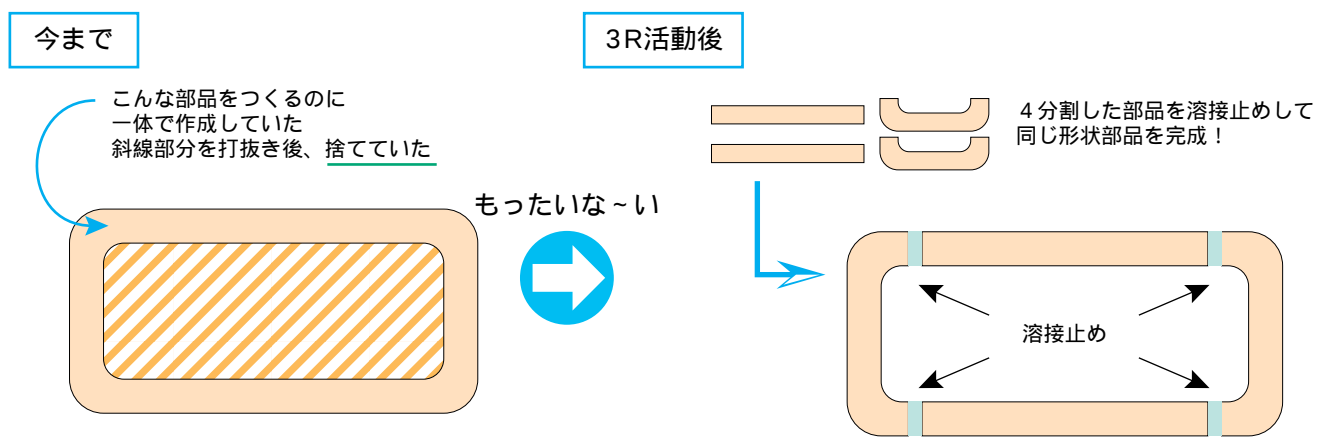
3R分科会って？

Reduce	ゴミを出さないように
Reuse	物を大切に
Recycle	使い終わったらもう一度資源にする

3つの“R”を推進する為に発足したチームが3R分科会です。
3R分科会では「資材費の低減」と「廃棄物の削減」を目標として日々活動しています。
3R活動対象品は基本的には工場内で使用される部品全般ですが、特に“ゴミ”排出量の多い下記10品目を中心に活動しています。またその10品目にはそれぞれその道の“プロ”を担当者として張り付けており、その人が中心になって3R活動を展開しています。

- | | |
|------------|----------|
| 天井コイル材（銅板） | リノリウム |
| 側部コイル材（＃） | プラスチック |
| 鉄材 | 電線 |
| ステンレス材 | 塗装・シンナー |
| アルミニウム材 | 木材・ダンボール |

こんな活動をしています



年間300kgの廃棄鉄材を減らすとともに、3万円の購入資材費を低減

環境関連設備

環境に関わる設備として、排水・污水处理場 水質、コンプレッサー・プレス等 騒音/振動、塗装設備 悪臭 等が挙げられます。(それぞれの設備とも基準値を下回っています)

小松事業所

宇都宮事業所

水質



【排水処理場】

生産排水系（主に、塗装設備、電着設備からの排水）の水を処理しています。

処理方式：沈殿方式
処理量 140t/日
(処理能力 160t/日)

処理方式：加圧浮上式
処理量 100t/日
(処理能力 240t/日)



【污水处理場】

生産排水系（主に、水洗トイレ、食堂からの排水）の水を処理しています。

処理方式：沈殿方式
処理量 20t/日
(処理能力 100t/日)

処理方式：活性汚泥方式
処理量 15t/日
(処理能力 80t/日)



騒音/振動

【コンプレッサー】



騒音・振動の主な発生源は、プレスや工場へ作業用エアーを供給するコンプレッサー、及び給排気ファンです。工場周辺地域への影響を配慮するとともに、定期的な測定を実施しています。

【プレス】



鋼材の切断・折曲げ・穴あけ等を行っています。



【塗装ブースの給排気ファン】



【コンプレッサー】

大気その他

【LNGプラント】



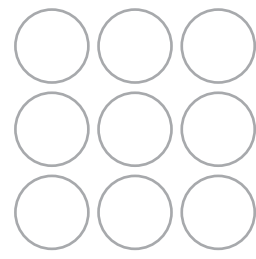
排気設備として、塗装工場、暖房、乾燥炉等がありますが、排出化学物質量は微量です。その他に、LNGプラント、廃棄物集積場等があります。

【排気設備】



【廃棄物集積場】





コミュニケーション

見学者の受入

小松、宇都宮両事業所とも工場内見学は随時行われており、2004年度も両事業所合わせると一万人近い見学者をお迎えしています。



例年、7月に行なわれる納涼祭

構内を開放した夏祭り。近隣住民とのコミュニケーションに役買っています。



工場班長会による周辺地域のゴミ拾い



新潟中越地震災害復興ボランティアに参加しました。



ボランティア活動の拠点となる新潟県魚沼市にて

2005年1月研修センター開設（小松事業所）



研修センター



製品展示



実技場



ロビー

当センターは社員の技能向上、サービス要員の教育を通し、より質の高い車を提供することを目的に開設致しました。

又、製品の展示場、製造工程等を開設する研修室を設け、当事業所に来られるお客様、見学される地域住民の皆様、バスを理解して頂ける様努めています。

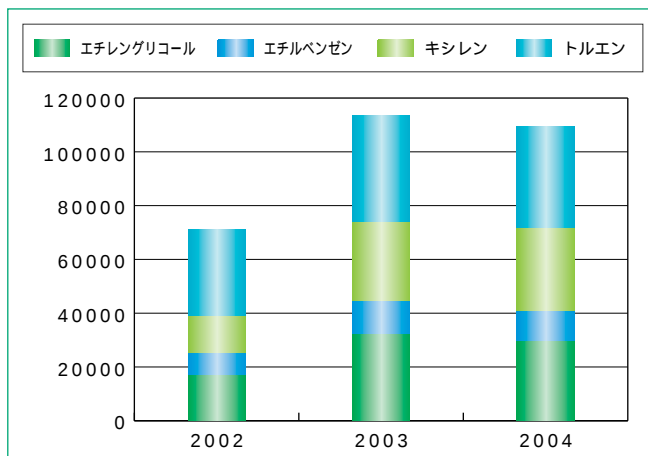
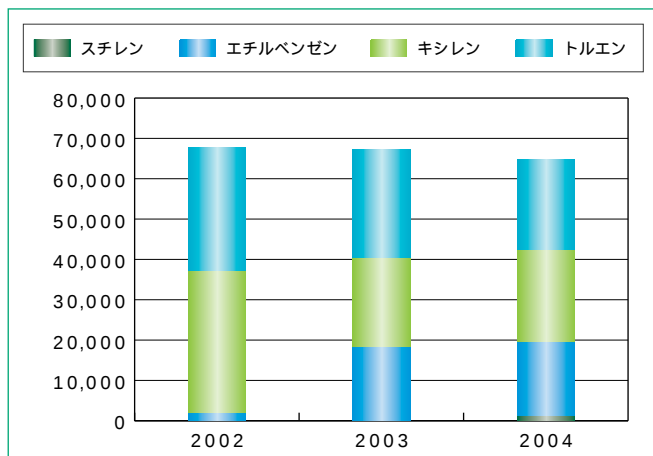
環境に係わる法規制遵守状況

PRTR法への取組み

塗装工程や接着剤、シール剤等に含まれる化学物質の管理は、環境マネジメントシステム文書「化学物質管理手順」「化学物質管理システム運用マニュアル」によって管理されており、環境マネジメントシステムの中でも監視項目として取り扱っています。改善活動としては「上塗り塗料の鉛フリー化」、「洗浄シンナーの再利用」、「シール剤の変更によるトルエン、キシレン低減」等の対策を行いました。

PRTR報告については2002年度より届出をしており、以下にその数値を示します。

これらの法規制については環境マネジメントシステムの中の『法規制遵守評価リスト』等により毎月チェックされています。



2002年10月より稼働を始めた工場のため、2002年は下期のデータによる参考値です。

その他法規制について

環境マネジメントシステム文書「法律・条例その他の要求事項登録・管理手順」「法的及びその他の要求事項リスト」によって管理されており、環境マネジメントシステムの中でも、監視項目として取り扱っています。

下記項目に関連する法律・条例を遵守しています。

- | | | |
|---------|---------------|----------------|
| 1) 公害防止 | 7) エネルギー | 13) 地盤沈下・地下水保全 |
| 2) 水質汚濁 | 8) 地球温暖化 | 14) 土壌 |
| 3) 大気汚染 | 9) オゾン層保護 | 15) 消防 |
| 4) 騒音 | 10) 化学物質 | 16) 高圧ガス |
| 5) 振動 | 11) 廃棄物・リサイクル | 17) 労働安全衛生法 |
| 6) 悪臭 | 12) 土地利用 | 18) 自動車リサイクル法 |

法の遵守状況の監視

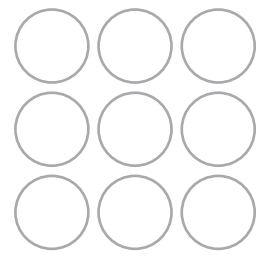
環境マネジメントシステムの中で、「遵法チェックリスト」に基づき、「環境法規制遵守状況の、定期的な評価」を年2回実施します。

コンプライアンス活動について

当社は『環境方針』において環境関連法規・協定等の遵守や地域における環境活動に積極的に協力することを明記し、その実践に取組んでおります。

当社の法令遵守を推進すべく組織として『コンプライアンス推進グループ』を設置し、社内体制の構築と、全社の法令等遵守・問題意識向上に取組んでおります。

また、当社に勤務する全ての人を対象にした『コンプライアンス宣言』を2005年7月29日に発表しました。全社的にコンプライアンス宣言をより早く浸透すべく、コンプライアンス宣言を理解し易くしたパンフレットを当社に勤務する人全てに配布し、自らがコンプライアンスを意識した行動をとる社風の確立を目指しております。



グリーン調達・環境会計

グリーン調達（宇都宮事業所）

2004年度より、特定した協力企業において、省エネ活動から始まり水質保全、有害物質削減等を盛り込んだ実施計画により、環境保全活動を推進しています。

また、物流改善による運搬業務削減を進めた結果、2005年上期でおよそ200万円のコスト削減できました。

2005年度は協力企業における環境保全活動の推進と物流改善を更に推進していきます。

環境会計（宇都宮事業所）

環境会計は環境に関するコストとその効果を把握し、今後の環境保全活動を効率的に行っていくための重要な指標となります。

宇都宮事業所では2004年度より環境会計の導入について活動を開始しました。

今後は更に精度の向上に努め、開示情報の多様化を図っていきます。

環境保全コスト

環境活動のための設備投資額と経費

千円

分 類	設備投資額	経 費	合 計	主 な 取 組 み 内 容
事業エリア内コスト	94,148	39,352	133,500	
公害防止コスト	81,265	24,941	106,206	公害防止（大気、水質、騒音、振動、など）
地球環境保全コスト	12,883	0	12,883	地球温暖化防止および省エネルギー、オゾン層保護など
資源循環コスト	0	14,411	14,411	廃棄物の削減・リサイクル・適正処理、水使用量の削減
上・下流コスト	0	415	415	使用済み製品の回収・リサイクル・適正処理など
管理活動コスト	28,790	151,088	179,878	環境、マネジメントシステムの整備・運用、情報開示、従業員教育など
研究開発コスト	0	1,782	1,782	環境保全に資する製品等の研究開発など
社会活動コスト	0	185	185	環境保全を行う団体や地域住民が行う環境活動などへの寄付および支援
環境損傷対応コスト	0	10,000	10,000	過去の汚染（地下、土壌など）に関する調査および対策など
合 計	122,938	202,822	325,760	

環境保全効果

事業活動での環境負荷について、前年度と比較した環境パフォーマンス（物量値）の改善を表すもの。

t

分 類	削減量	台あたり削減量
CO2排出量	- 529	0.3
産業廃棄物処分量	- 118	0.1

企業内経済効果

「環境保全対策に伴う経済効果」を指し、環境保全対策を進めた結果の費用削減効果金額

千円

分 類	削減量	台あたり削減量
事業場省エネルギー	- 14,083	11.3
廃棄物処理費用の削減	1,376	4.6

ジェイ・バス株式会社

環境報告書 2005

JBUS
ENVIRONMENTAL
REPORT
12月発行

お問い合わせ先

ジェイ・バス株式会社 総務部 安全環境グループ
小松事業所 0761-44-8611
宇都宮事業所 028-673-6061



古紙配合率100%再生紙を使用しています。